

(図中の口上文)

乍憚高うはござりますれ共役所の義にござりますれば御免を蒙りまして是より一寸口上を申上奉りまする先もちまして勘二郎御臈臈とござりまして残暑の御いとひもなく早

朝よりかやうに賑々敷御見物に御入下さりまする段

座本勘二郎義は申上るに及ばず若太夫伝九郎

七三郎初め惣座中いかばかりか難有仕合に奉存

まする随ひまして申上まするは中村歌右衛門義に

ござりまする当盆狂言之義は御当地御名残

一世一代舞台勤納めを仕度由を申出しまするに

付まして勘二郎始惣座中打寄評義

仕ましたる所勘二郎申まするは是迄御臈

臈に預たる御当所の事なれば今両三年相勤め

其上の事にいたしたらよかるうやうに私へ申聞まする故右の

よしを歌右衛門に申聞ましたる所忝ふはごされ共当時多病に

罷成舞台も勤兼まする故せひく右の趣に取斗

置まするやう私へ頼まするに付まして止事を得ず一世一代の相勤御覽に入
れ

まする尤番付に差出しましたる通十日めく／＼に狂言を取替御覽に入奉り
まする御臈臈

御取立之歌右衛門義にござりますれば仰合されまして賑敷御見物に御光駕
の程偏に希上奉りまする先は其為

口上すみからすみまでずいと左様に御聞下されませう